
学 会 記 録

1. 学会記事

1. 第12回全国大会（名古屋）概要

昭和48年度の第12回全国大会は、中部々会ならびに名古屋港管理組合の御尽力によって10月29日(月)～10月31日(水)の間、「港湾会館」を中心として盛大裡に終了した。

今回の共通論題は「港湾機能の近代化と地域経済・社会」で、下記のような8名の報告者、(自由論題, 4名)による発表を得ることができた。このうち共通論題を中心とするシンポジウムはその要約が別項に示されている。なお講演会をはじめ、名古屋港見学会、理事・評議員会、懇親会などの大会プログラム全体にわたって、地元名古屋港管理組合、および中部々会、その他名古屋商工会議所、名古屋港振興協会等、関係者各位の大きな御協力によってつががなく終了したことは感謝に耐えない。それらのおかげをもって会員出席者も約100名、地元関係者約数10名という盛況ぶりであった。

(研究報告・自由論題)

- ① 塩釜港と工業との関連性……………(仙台大学) 永野 為紀
- ② 新潟港の諸問題と将来課題……………(新潟大学) 佐藤 元重
- ③ 名古屋貿易業界と名古屋港……………(愛知大学) 菅沼 澄
- ④ 大分港の発展……………(大分大学) 松浦 茂治
- ⑤ 「那覇港の現状と方向に関する一考察」……………(流通経済研究所) 山内 盛弘

(研究報告・共通論題)「港湾機能の近代化と地域経済・社会」

- ① 港湾の外部経済効果に関する定量分析
——巨視的モデルによる——……………(名古屋市立大学) 岡崎不二男
- ② 港湾機能と地域開発……………(北海道総合研究所) 徳田 欣次
- ③ 海運流通の体系化と地域港湾の諸問題……………(小樽市港湾部) 神代 方雅
- ④ わが国におけるコンテナ貨物の背後流動の実態について
……………(京浜外貿埠頭公団) 棚橋 貞明
- ⑤ 港湾におけるレジャー機能の展開と地域開発
……………(港湾経済研究所) 千須和富士夫
- ⑥ 港湾の近代化における地域概念……………(東海大学) 東 寿
- ⑦ 港湾行政の近代化と地域……………(函館大学) 和泉 雄三
- ⑧ 港湾の近代化と「地域社会」の基礎課題……………(青山学院大学) 北見 俊郎

(講演会)

- ① 新経済社会基本計画と新しい「港湾整備5ヵ年計画」

……………(運輸省港湾局技術参事官) 大久保喜市

- ② 名古屋港の回顧と将来について……(名古屋港管理組合副管理者) 紅村 文雄
注 上記共通論題報告の内容は学会年報「港湾経済研究」No.11に掲載されており、自由論題報告内容については同年報、No.12に掲載される予定である。

(文責・北見)

2. 部 会 記 事

① 北海道部会

下記の研究報告が昭和49年5月30日、北海学園大学(札幌市)において行なわれた。

- (1) 発表者 筒浦明(北海学園大学教授)
(2) テーマ 「北九州の海岸線と港湾」
(3) 要 旨 北九州の海岸線について、写真スライドを中心に、その実態を示し、特に港湾の地形、立地の状況を適格に明らかにした。
- (1) 発表者 徳田欣次(北海道立総合経済研究所労働経済課長)
(2) テーマ 「苫小牧港の港湾労働」
(3) 要 旨 北海道では比較的近代荷役の比重が高い、苫小牧港、いわゆる近代荷役と在来型荷役の結合された港湾荷役の技術体系と、労働力構成(雇用形態、年齢、経験、給源など)ならびに労働条件との間における矛盾点と対策課題を指摘した。
- (1) 発表者 松沢太郎(札幌大学講師、松坂科学文化振興財団副理事長)
(2) テーマ 沖繩の開発と港湾
(3) 要 旨 沖繩振興開発計画とそれに関連する沖繩の産業の実態と方向を明らかにした。これと港湾との関係についてふれ、港湾整備の遅れが地域開発の隘路となっている、特に生活港湾的な性格と機能をもつ、離島港湾の特性と整備の必要を指摘、またレクリエーション港湾の整備も沖繩産業の現状から、考慮すべきだとした。
- (1) 発表者 神代方雅(小樽市港湾部次長)
(2) テーマ 「国土利用の斉合性と地方港湾」
(3) 要 旨 国土利用に関する諸施策、計画が既存地方港湾の発展と逆行するケースの多いことを具体的に明らかにした。(例えば、シベリアランドブリッジの主要拠点の小樽港が施設の問題で他港へ貨物ルートが移行する問題。既存港湾へ企業立地が困難になることなど。)

また「港湾」の企業性と公共性との調整をどうするか、港湾整備の地方自治体への負担転嫁の実情の問題点などを提示した。

(文責、徳田)

② 関東部会

港湾経済に関する諸問題の分析を行なう場合には、きわめて実践的な領域にまで立ち入ることが要請される。

したがって昭和48年度の部会活動も現実の港湾問題を主要議題として取り上げ、会員各位による活発な論議の展開を行なってきた。以下その活動記録を要約して報告にかえる。

(1) 第1回部会

発表者：日通総合研究所 研究主査 齊藤公助氏。テーマ：『港湾倉庫におけるコンテナ化の現状と将来』、発表年月日：昭和48年8月4日（土）、場所および日時：日本港湾協会談話室 自午後2時～至4時30分、司会：山村学（（財）流通経済研究所）。出席者：約15名、発表要旨：最近における海上コンテナの動きと港湾倉庫を中心としたコンテナ化の現状分析結果が報告された。

今回はとくに、東京港と横浜港の動向分析に焦点を集中して活発な討論を行なった。

(2) 第2回部会

発表者：日通総合研究所 主任研究員 市来清也氏。テーマ：『内航海運の現状と港湾問題』、発表年月日：昭和48年12月1日（土）、場所および日時：日本港湾協会談話室 自午後2時～至4時30分、司会：山村学（（財）流通経済研究所）。出席者：約20名、発表要旨：内航海運の特色と専用輸送化からみた港湾の概況が行なわれ、ひきつづいて海陸協同一貫の進展に伴って発生した具体的な港湾問題にふれられた。またカーフェリー埠頭化と貨物流動の変化、さらにはそこに生じる港湾問題と展望にまで論及された後、種々の質疑応答が行なわれた。

(3) 第3回部会

発表者：港湾経済研究所 所長 高見玄一郎氏。テーマ：『港湾の経済開発からみた情報処理の方法論』、発表年月日：昭和49年1月26日（土）、場所および日時：日本港湾協会談話室 自午後2時～至4時30分、司会：山村学（（財）流通経済研究所）。出席者：約20名、発表要旨：システム開発の目的は、港湾コストの引下げと貿易情報システム化の要請に応えるためのものであるとする同氏の研究開始経緯とテキストの解説が主な内容であった。まず定義と評価から始まり、静的、動的最適化、開発の意志決定、シミュレーション・プログラムとシミュレーション・パッケージ、オペティマイゼーション・プログラミングへと展開されていき、説明後質疑応答が長時間行なわれた。

(4) 第4回部会

発表者：東京都港湾局企画部 副参事 高橋恵三氏。テーマ：『新しい東京港の開発について』、発表年月日：昭和49年4月20日（土）、場所および日時：日本港湾協会談話室、自午後2時～至4時、司会：山村学（（財）流通システム開発センター）。出席者：約25名、発表要旨：東京港における港湾計画の史的変せんを述べら

れたあと、今度の埋立地開発と利用の方向を具体的に解析し報告された。その中でも、新しい開発方式として導入された貸付方式や時価の採用、開発保留地の確保、財政問題と開発プログラムの確立などについて活発な質疑応答が行なわれた。

なお、ひきつづき学会の常任理事会が開催されたので、以上の概要を説明すると共に、日本港湾協会の御好意による談話室継続利用の件および埠頭経営研究会の後援による部会発表内容の報告書作成実現の件などを報告した。

(文責, 山村)

③ 関西部会

開催日：昭和49年4月19日、報告者：兵庫県倉庫協会専務理事 河井熊一氏。テーマ：港湾における上屋と倉庫（48年夏以後港頭滞貨と倉ばしけ、倉庫などの運用状況ならびに上屋・倉庫の競合関係について報告があった）、参加者：56名。この部会は海運経済学会関西部会と共催した。

(文責, 柴田)

「港湾経済研究」総目次

1. 1963年 (No. 1) (部数なし)

本邦戦時港湾施策	矢野剛
港湾財政の問題点	柴田銀次郎
港湾設備の増強と地域開発	伊坂市助
港湾における新しい労働管理の概念	高見玄一郎
港湾運送業の現状	松本清
衣浦港の交通	松浦茂治
港湾経済の本質	北見俊郎
港湾施設の与えた損害に対する船主の賠償責任と海上保険	今泉敬忠
「イギリス主要港湾に関する調査委員会報告書」	中西睦
「神戸港における港湾荷役経済の研究」	寺谷武明

2. 1964年 (No. 2) 「港湾投資の諸問題」(部数なし)

長期経済計画における港湾投資額の推計	加納治郎
摩耶ふ頭の建設と運営	岸孝雄
公共投資と港湾経済	北見俊郎
イギリスにおける港湾諸料金の徴収制度と問題点	中西睦
ヨーロッパの石油港湾	浮穴和俊
港湾労働対策への一提案	柴田銀次郎
港湾労働の課題	河越重任
船積み月末集中の原因とその対策	高村忠也
国際コンテナの諸問題	宮野武雄

北見俊郎著「アジア経済の発展と港湾」	中西睦
北海道立総合経済研究所編「北海道の港湾荷役労働」	寺谷武明
同上「港湾労働」	北海道立総合経済研究所

3. 1965年 (No. 3) 「経済発展と港湾経営」(部数なし)

港湾のもたらす経済的利益の分析	柴田銀次郎
港湾経営の「理念」と問題性	北見俊郎
港湾機能の地域的問題点	今野修平

国際収支における港湾経費改善のための理論的考察……………中西 陸
 港湾資産評価とその問題点……………杉 沢 新 一

矢野剛著「港湾経済の研究」……………寺 谷 武 明
 海運系新論集刊行会編「海運と港湾の新しい発展のために」…織 田 政 夫
 向井梅次著「港湾の管理開発」……………喜多村 昌次郎
 喜多村昌次郎著「港湾労働の構造と変動」……………徳 田 欣 次
 宮崎茂一著「港湾計画」……………川 崎 芳 一

P. C. Omtvedt ;

Report on the Profitability of Port Investments……………中西 陸
 J. Bird ;

The Major Seaports of the United Kingdom……………北 見 俊 郎

4. 1968年 (No. 4) 「地域開発と港湾」(部数若干あり, 送料実費とも¥800)

後進的地域開発と港湾機能……………武 山 弘
 港湾による地域開発問題について……………田 中 文 信
 港湾機能と経済発展……………北 見 俊 郎

——地域開発に関連して——

東北開発と野蒜築港……………寺 谷 武 明

——明治前期港湾の一事例——

神奈川県第3次総合開発計画と新しい港湾の計画理論……………高 見 玄一郎

港湾における都市再開発の問題……………今 野 修 平

——東京港における都市再開発を例として——

港湾労働の基調……………喜多村 昌次郎

——横浜港における労働力移動の素描——

港湾労働の近代化条件について……………徳 田 欣 次

港湾の最適投資基準……………是 常 福 治

——神戸港における測定の一例——

名古屋港発展史……………松 浦 茂 治

——昭和13—32年の20か年について——

港湾の物的流通費について……………中西 陸

パレット, フォークリフトの諸問題……………宮 野 武 雄

イギリス戦時港湾施策……………矢 野 剛

東京湾における広域港湾計画に対する一指針……………奥 村 武 正
 今 野 修 平

横浜港施設改善に関する日本損害保険協会

からの要望について……………今 泉 敬 忠

Colonel R. B. Oram ;

Cargo Handling and the Modern Port……………松 木 俊 武

Charles P. Larrowe ;

Shape-up and Hiring Hall……………山 本 泰 督

高見玄一郎著「港湾労務管理の実務」……………徳 田 欣 次

松宮 斌著「港湾の財政・経営のあり方」……………柴 田 悦 子

横浜市港湾局編

「横浜港における港湾労働者の実態と住宅事情」……………和 泉 雄 三

新潟臨港海陸運送株式会社編著「創業六十年史」……………小 林 寿 夫

5. 1967年 (No. 5) 「輸送の近代化と港湾」・「日本海沿岸の港湾の諸問題」

(部数若干あり, 送料実費とも¥800)

輸送の近代化と臨港上屋の運営……………松 本 清

港湾業務の合理化と海運……………岡 庭 博

流通近代化とコンテナリゼーション……………高 見 玄一郎

物的流通の近代化と港湾……………斎 藤 公 助

「輸送の近代化」と全港湾輸送体制……………北 見 俊 郎

経済開発と日本海沿岸の港湾……………佐 藤 元 重

新潟臨海埠頭の形成とその特性……………小 林 寿 夫

小樽港の現状と課題……………神 代 方 雅

港湾施設利用の問題点……………今 野 修 平

港湾原単位算定における問題点……………井 上 洋 二 郎

港湾原単位算定における問題点……………杉 沢 新 一

港湾労働法の施行をめぐる諸問題……………大 森 秀 雄

後進島地域経済発展の転型と港湾商機能……………武 山 弘

砂利類の海上輸送増大化傾向について……………棚 橋 貞 明

わが国における運河発達の特性……………征 幸 雄

住田正二著「港湾運送と港湾管理の基礎理論」……………佐々木 高 志

中西陸著「港湾流通経済の分析」……………河 西 稔

港湾産業研究会編「港湾産業の発展のために」……………和 泉 雄 三

Docks and Harbours Act 1966……………河 越 重 任

V. H. Jenson ; Hiring of Dock Workers……………織 田 政 夫

6. 1968年 (No. 6) (部数若干あり, 送料実費とも¥800)

港湾の近代化と運送の機械化	和泉雄三
都市化と港湾の近代化	今野修平
苫小牧港における専用船の実態	松沢太郎
港湾の経済的性格に関して	柴田悦子
ターミナル・オペレーションの経営的基礎	喜多村昌次郎

—米国主要港との比較において—

地方公営企業としての港湾整備事業	細野日出男
港湾とシティ・プランの基本論	神代方雅
貨物輸送上における港湾	宮野武雄
未来学成立の可能性	本間幸作

—港湾論に関連づけて—

日本港運協会編「日本港湾運送業史」	寺谷武明
松本好雄著『コンテナの輸送実務』	松岡英郎
喜多村昌次郎著「輸送革新と港湾」	玉井克輔
北見俊郎著「港湾論」	榎幸雄
B. Chinitz; Freight and the Metropolis	武山弘
T. A. Smith; A Functional Analysis of the Ocean Port	山本泰督

7. 1969年 (No. 7) 「大都市港湾の諸問題と将来」

(部数若干あり, 送料実費とも¥800)

大阪港の貨物流通とその問題点	柴田悦子
大都市港湾としての東京港の問題点	今野修平
広域港湾論, 主としてオペレーションの観点から	高見玄一郎
大都市港湾の問題点と将来	北見俊郎
港湾運送機能合理化の考察	宮地光之
海運流通の斉合性	神代方雅
港湾の近代化と「制度」の問題	佐々木高志
港湾労働災害に関する責任の所在についての考察	玉井克輔

—特に船内荷役労働について—

大阪市港湾局編「大阪港史」	寺谷武明
栗林商会労働組合同編「栗林労働史」	喜多村昌次郎
神戸市企画局調査部編「広域港湾の開発と発展」	榎幸雄

- 港湾産業研究会編「変革期の港湾産業」……………松 橋 幸 一
 Dipl, Ing. Gustav Haussmann;
 Transcontainer-Umschlag……………荒 木 智 種
 Maritime Cargo Transportation Conference N. A. S;
 San Francisco Port Study……………千須和 富士夫

8. 1970年 (No. 8) 「流通革新と埠頭経営 (成山堂発行, 定価1250円, 部数あり)

欧米のポート・オーソリティとわが国の

- 港湾の管理問題……………矢 野 剛
 自由港の復興……………柴 田 銀次郎
 日本港湾におけるターミナルオペレーターの論理……………東 寿
 広域港湾と埠頭経営……………喜多村 昌次郎
 ターミナルオペレーションと公共性の経済的意味……………千須和 富士夫
 「流通革新」と「港湾経営」の基本問題……………北 見 俊 郎
 港湾における情報の研究……………荒 木 智 種
 港湾労働者の供給側面について……………篠 原 陽 一
 労務管理に見る港湾荷役企業近代化について……………玉 井 克 輔
 港湾運送事業料金と港湾運送近代化基金について……………山 本 長 英
 海運流通の斉合性 (そのII, 海運流通斉合の方向) ……神 代 方 雅
 湾域高速鉄道の方向……………浅 葉 尚 一
 穀物サイロにおける内部流通の現象と
 均一排出装置について……………桜 井 正

- 港湾産業研究会編「輸送革新と港湾産業」……………柴 田 悦 子
 新潟県商工労働部編「港湾労働者実態調査結果報告」……………寺 谷 武 明
 R. O. Gross; Towards an Economic Appraisal
 of Port Investment……………東海林 滋
 National Ports Council; A Comparison of the
 cost of Continental and United Kingdom Ports……………織 田 政 夫

9. 1971年 (No. 9) 「現代港湾の諸問題」 (成山堂発行, 定価3000円, 部数あり)

- 公企業経営としての港湾問題……………東 寿
 港湾と港湾運送—港湾機能拡大と変革の基礎—……………喜多村 昌次郎
 広域港湾における港運事業の近代化について……………山 本 長 英
 東京湾港湾取扱い貨物量の適正化と港湾管理問題……………千須和 富士夫

港湾広域化問題の一考察……………	柴田悦子
巨大都市化と広域港湾問題……………	今野修平
港湾行政の近代化……………	和泉雄三
広域港湾と港湾経営の本質的課題……………	北見俊郎
明治時代の港湾と鉄道……………	宮野武雄
わが国における倉庫ならびに倉庫業の史的発展……………	斎藤公助
太平洋戦争下における港湾政策の意義……………	寺谷武明
港湾における賃労働と荷役業の成立と展開	
——日本港湾労働の一研究として——……………	玉井克輔
港湾の油濁損害に関する一考察……………	今泉敬忠
工業港における埠頭利用の問題点……………	今野修平 永野為紀
港湾における言論の自由……………	荒木智種
港湾産業と鉄鋼産業 ——その系列化傾向と	
支配構造の一面について——……………	山村学
北海道における工業開発と港湾の課題……………	松沢太郎
海運流通の斉合性(Ⅲ)	
——資本生産性からみた斉合性の追求——……………	神代方雅
イギリス絶対王政下にみる港湾と海運(Ⅰ)……………	長島秀夫 小林照夫
喜多村昌次郎著「港湾産業」……………	松橋幸一
北見俊郎著「港湾総論」……………	山本和夫
欧米港湾労働事情研究調査団編著「欧米の港湾」……………	市川勝一
J. Mondalshi; "Zegluga W Gospodarce Japonu 1964"……………	山本泰督
William L. Grossman; "Ocean Freight Rates"……………	富田功
A. H. J. Bown "Port Economics"……………	山上徹

10. 1972年(No. 10)「輸送システムの変革と港湾」

(成山堂発行, 定価1,800円, 部数あり)

輸送システムの変革と港湾の変貌……………	今野修平
輸送システムの変革と港湾運送業の体制的諸問題……………	北見俊郎
外航定期貨物輸送船における輸送システムの変革と	
港湾運送業の再編成……………	市川勝一
輸送システムの変革と新しい公共財概念……………	東寿
フェリー運航と在来埠頭の再開発……………	松沢太郎

輸送システムの発展とターミナルオペレーションの 変化	千須和 富士夫
港湾および港湾事業の経済的性質	田 中 文 信
港湾運送業の直面する問題点と背景	宮 地 光 之
カーフェリー輸送と港湾	市 来 清 也
道央海運流通と広域港湾	神 代 方 雅
上屋戸前受制以後の変化について	田 中 省 三
ポートコンピュータへの一観点	三 木 楯 彦
輸送システムの変革と在来埠頭の再開発	永 瀬 栄 治
寺谷武明著「日本港湾史論序説」	柴 田 悦 子
柴田悦子著「港湾経済」	柁 幸 雄
東京港湾問題研究会「港湾問題研究」	斉 藤 圭 太郎
港湾産業研究会編「港湾産業の危機と発展」	鈴 木 暁
市川猛雄著「港湾運送事業法論」	山 上 徹
Hamburger Hafen Jahrbuch, 1970	荒 木 智 種
Ports of the World 1972, Twenty-fifth Edition	松 木 俊 武
Proceedings of the Seventh Conference, The International Association of Ports and Harbors, 1971. 12	富 田 功

11. 1973 (No. 11) 「港湾と地域経済・社会」

(成山堂発行, 定価2,500円, 部数あり)

港湾の「近代化」と「地域社会」の基礎的課題	北 見 俊 郎
港湾行政近代化と地域	和 泉 雄 三
港湾の外部経済効果に関する定量分析	岡 崎 不 二 男
港湾機能と地域開発	徳 田 欣 次
海運流通の体系化と地域港湾の諸問題	神 代 方 雅
新潟港の諸問題と将来課題	佐 藤 元 重
名古屋貿易業界と名古屋港	菅 沼 澄
那覇港の現状と方向に関する一考察	山 内 盛 弘
わが国における海上コンテナ貨物流動の実態について	棚 橋 貞 明
港湾におけるレジャー機能の展開と地域開発	千須和 富士夫
港湾労働組合形成期の港湾争議	玉 井 克 輔
CTS建設をめぐって	松 岡 英 郎
公共埠頭に於ける港湾労働の近代化と福利	

厚生施設について……………	市川勝一
財務諸表からみた鉄鋼専門埠頭……………	山村学
港湾労働者の労働時間に関する一考察……………	土居靖範
和泉雄三著「港湾行政」……………	鈴木暁
今泉敬忠・坪井昭彦共訳「船舶の衝突と海上保険」……………	三村真人
Seaports and Seaport Terminals……………	東海林滋
Transport and Distribution……………	織田政夫
The impact of industrial change……………	富田功
Des Standorsprofilen der Seehäfen……………	山上徹

[SUMMERIES]

The Changing of Functions on Local Port in Japan
 —Relations of The Nagasaki Port Authority with City of Nagasaki—

by

Kanichi Kawachi

1. Preface
2. A Historical Character of The Port of Nagasaki.
3. The Changing of Functions for The Port of Nagasaki.
4. Concerning of The Port of Nagasaki and its Economic Structure.
5. The Transitional Stage of The Nagasaki Port Authority.

The Present Situation of Kanda Port and its Development Project

by

Hironori Hidaka

Kanda port has so far been developing, discharging its supplementary function of Wakamatsu port as a port for transporting the coal produced in the hinterland area, that is, the Chikuho coal field.

But, under the influence of a 'so-called energy revolution', the coalmine industry has gradually declined, and as a result of it, the port has been obliged to reduce its function as a coaling port.

However, the development of the cement industry in the local area has enlarged the amount of freight such as heavy oil and material wood these days, with cement and lime stone as staples, and furthermore, as the formation of Kanda port area as a marine industrial area, next to Kitakyushu industrial area, advances, the port is now taking on a character of an industrial port.

Moreover, the recent service of ferryboats in the port has made stronger the relation between the Kanda area and the Chūgoku, Shikoku, Hanshin districts, and what a port should be as a distribution center has come into question.

Therefore, even the development project of a port should be fully discussed in relation to the local development project in the area.

Problems of Maizuru Port and their Local Development

by

Manzo Kanai

1. Preface
2. Current Conditions of Trade in Maizuru.
3. The fundamental conditions on the development in Maizuru Port.
4. The direction on the development.
5. Promotions for the Industry at the Hinterland.
6. Problems on Area planning and Basic direction for Port development.

Functions and Problems of Misaki Fishing Port

by

Teruo Kobayashi; Tatsumi Naito

The purpose of this paper is to show about the functions and problems of Misaki Fishing Port, especially to clarify some of the characteristics of the port.

Also attention will be focussed upon the items as follows:

(1) Relations of Misaki Fishing Port with Miura City, (2) Some distribution problems of fish (Mainly tunne), (3) Problems of the Misaki Fishing Market (Misaki Uoichiba) and its future.

Problems of Development of Local Ports in Noto Peninsula

by

Yozi Amemiya

The purpose of this paper is to define the vision of six local ports in Noto peninsula and to suggest the fundamental problems on port development in a backward region.

Problems on Management and Operation of Local Port
—As an example of Onahama Port in Fukushima Prefecture—

by

Isao Tomita ; Tohru Yamajo

1. Preface
2. Port Function and Hinterland.
3. Current Conditions and Problems of Port Management and its Operation.
4. Prospectives.

An aim at our collaboration is to follow the modernization of Management and Operation in Ports. In this case, we are to describe about actual affairs of the Prefectural "Port Service" Section.

A Concept of the Domestic Trade Network
Ports (DTNP) and its Theme

by

Genichiro Takami

1. Conversion of the port concept

Just now after the sixties of nineteen, international trade volume was extremely expanded and it required a large scale and high speed transportation procedure. On this phase of development, the concept of the port must be changed. The flow of cargo plays decisive role on ports. This is the most important factor from where the concept of the Domestic Trade Network Ports was borned.

2. The concept of the DTNP

Definition: The standards of investigation.

- a) Volume of cargo
- b) Steadiness of cargo flow
- c) Publicity
- d) Rationality

3. Case study of six ports

Conclusion: Ports must be studied as a network of trade or groups

which differs each other from varied nature of cargo flow.

- a) Big city port cluster system
- b) Local distribution center
- c) Big distribution center port

The rotation of productive capital or national economy would covers all these categories by different form or by different manner.

4. The theme of the DTNP

The DTNP must be ports which promote the rotation of productive capital or development of national economy. They must be provided with the modern transportation technique such as container ship, car-ferry, inland trailer system. Modern berths, truck terminals, storage facilities and inland depot, and intermediate manufacturing or processing center tec., would be required. Computerized information system would be usefull. The port information system or the trade information system would be the most important factor concerning the rationality which we mentioned above.

On Problems of Local Ports with Relation to Consistent Use of National Land

by

Masanori Kumashiro

1. Tendency of international economy and a logical consideration of consistent use of national land.
 - (1) Tendency of international economy.
 - (2) Logical consideration of consistent use of national land.
2. Several problems of local ports.
 - (1) A policy how to operate marine transportation.
 - (2) A policy how to operate local port.
 - (3) A policy how to operate over land transportation.
3. Conclusion.

With this as a turning point of recently international problems on energy resources or natural resources, the rapid change of economic and industrial structures in Japan is closely connected with the promotion

of all-round and averaged use of national land.

To promote the averaged use of national land according to the speciality of local area, the cost price of transportation must be averaged in all over the land through marine transportation business, port transportation business and land carriage business.

So it is necessary for us to have a policy of expanding productivity of transportation through the sea and the land.

And also, local ports must have the averaged function of port in response to local speciality.

In concerning with this theme, I will study a fundamental policy of local ports.

The Port of Medieval Japan —a case of the Wakae-no-Shima Port—

by

Takayuki Okutomi

In 1232, the Wakae-no-Shima port was constructed by a priest Oamidabutsu supported by Yasutoki Hōjō, a regent of the Kamakura Shogunate. After the construction, the port was presented to Gokurakuji temple, which collected port dues, repaired the banks, and ruled the port town. The town was prosperous with Hōjō's vassals, who managed the tax-warehouses, and timber traders and so on. So, it was named Zaimokuza after the timber guild.

In 1333, the patronage of the Kamakura Shogunate disappeared. The Muromachi Shogunate tried to support Gokurakuji, but in vain, because of the continuous civil wars. At last, the port was collapsed by the flood in 1370.

Today, we can look upon the history of the harbour as an example of vicissitudes of the Medieval harbours of Japan.

The Management of Port Service in Private Port

by
Hideo Mathsoka

1. The actual condition of Port Service.
2. An illustration of Port Work.
3. The problems awaiting solution.

Economic Development and the Roles of Ports in Developing Countries —especially, Economic Development in India and India's Ports—

by
Yuzuru Yoneyama

There has been a striking growth in the traffic of Indian ports since the planned economic development of the country was begun in 1951. The expansion of trade through Indian ports and the change in the pattern of trade, involving a sharp increase in the export of ores and the import of oil grain and fertilizers, has placed a heavy change on the facilities and equipment available at the ports. Namely, it was necessary to improve the efficiency of the ports. This is same in the other developing countries.

Recently, Indian ports are looking ahead to the expansion of their total capacity to meet the needs of the growing foreign trade of the country. They also are being geared up to meet the challenging needs of the new modes of ocean transport, of cargoes such as unit loads, pallets, containerization, etc. But, they must resolve some problems that progress at all the major and minor ports, is slow and halting, owing to inadequate resources, the difficulty of obtaining foreign exchange, and the heavy strain on the economy of the country as the result of wars with Pakistan and China.

A Study of "demand control type" for the port system
—change of port function and port investment—

by

Gyo Suzuki

1. Preface—set a question.
2. The economic growth and short supply of social overhead capital.
3. The external diseconomies concerning the port.
4. The characteristic of port function concerning port planning.
5. subject to "demand control type of port" from "demand following type one".

編集後記

社会的コミュニケーションの効果は、人間の努力と報酬、願望と達成等のペアーによって実現されるといわれる。しかも、それは社会の中核として主要な手段になっている。この主要な手段は、自分だけの利益を求めることから、社会へサービスをするといった社会的責任へと変容するところに近代化が生れてくるといえよう。

港湾の社会が開かれた公共の場として形成されることが望ましいが、現実的にそれは複雑であり極めて閉ざされたものとされている。したがって、港湾の社会を近代化させるためには市民と港をオープンに結びつけるための新しい制度が、努力と報酬、願望と達成等によるコミュニケーションの効果が必要である。実はこの学会年報の社会的役割もそこにあると思う。

ところで今年度の年報執筆者は例年になく激増したことはよろこばしい。これは「テーマ」の故もあるかも知れないが、研究者の層が厚くなったこと、新進の研究者が増えてきたことで、従来の執筆者の固定化をさけうることにもなり学会の将来のためにも同慶のいたりである。しかし一面、学術論文として質的な問題点が残されていないとはいえない面があるが、これらも今後のコミュニケーションによって相互に高めあってゆく希望をも残されている。

編集委員会は昨年度の名古屋大会時につづいて何回となく開催されたが、とくに今年度からは、物価高の折から学会記録などもかなりコンパクトにしたり、原稿枚数の制限、締切日の厳守を願うなど事務局や編集関係者の御苦労も大変だったし、執筆者の方々にも御協力を願った次第である。また今年度からは、従来自由論題発表原稿を翌年度の年報に掲載していたが、これも発表年度の年報に掲載する方針をとった。

この年報が、開かれる港湾を願って隣接諸科学を土台とした学的体系化と近代港湾の形成に一石を投じようよう念ずると共に、関係者各位のコミュニケーションの橋わたしとなることをも念ずる次第である。終わりに出版事情の悪い中で、本年報の刊行に努力して下さった出版社に御礼を申し上げねばならない。

Aug. 1974

(文責、荒木)

編集委員 (A, B, C順)

荒木智種 小林照夫 松永嘉夫 柴田悦子
徳田欣次 玉井克輔 富田 功 (事務局)

◆日本港湾経済学会のあゆみ

- | | | |
|-------|----------------|----------------------------------|
| 1962年 | 創立総会および第1回大会開催 | (横浜港) |
| 1963年 | 第2回大会 | (東京港) 共通論題 (港湾投資の諸問題) |
| 1964年 | 第3回大会 | (神戸港) 共通論題 (経済発展と港湾経営) |
| 1965年 | 第4回大会 | (名古屋港) 共通論題 (地域開発と港湾) |
| 1966年 | 第5回大会 | (新潟港) 共通論題 (日本海沿岸における港湾の諸問題と将来) |
| 1967年 | 第6回大会 | (北九州・下関港) 共通論題 (輸送の近代化と港湾) |
| 1968年 | 第7回大会 | (小樽・道南諸港) 共通論題 (流通体系の斉合性と港湾の近代化) |
| 1969年 | 第8回大会 | (大阪港) 共通論題 (大都市港湾の諸問題と将来) |
| 1970年 | 第9回大会 | (清水港) 共通論題 (流通革新と埠頭経営) |
| 1971年 | 第10回大会 | (横浜港) 共通論題 (広域港湾と港湾経営の諸問題) |
| 1972年 | 第11回大会 | (神戸港) 共通論題 (輸送システムの変革と港湾運営) |
| 1973年 | 第12回大会 | (名古屋港) 共通論題 (港湾の近代化と地域経済・社会) |
| 1974年 | 第13回大会 | (長崎港) 共通論題 (地方港湾の役割と課題) |

地方港湾の役割と課題

(『港湾経済研究』 No. 12)

定価2500円

1974年10月5日印刷
1974年10月8日発行

編者 日本港湾経済学会
横浜市中区山下町279の1地先
(横浜市山下埠頭港湾厚生センター)
港湾総合研究所気付
日本港湾経済学会事務局
TEL 045-641-2556 〒231

発行者 (株) 成山堂書店
代表者 小川 実

印刷者 奥村印刷株式会社

発行所 株式会社 成山堂書店
東京都新宿区南元町4-51 (〒160)
電話 03-357-5861~7
振替口座 東京 78174 番

港湾研究シリーズ (全10巻)

- ① **港湾総論**
北見俊郎
シリーズの「総論」として、港湾の全貌をとらえ、これを理論と実態の二面から集大成した。社会科学的広さと手堅い論理構成によって、港湾が直面する大きな問題を理論的に分析すると共に将来のあり方をも示している。
¥3800
- ② **港湾発達史**
北見俊郎編
港湾一般ならびに関連分野と本邦における種類別主要港湾の事例を通じて、港湾の存在が占める役割を解明するとともに、史的見地からの現代港湾の動向と問題点をも明確化しようと企画するものである。
近刊
- ③ **港湾経済**
柴田悦子
港湾経済の研究は、資本主義経済、社会の全体を把握しなければならず、本書はそうした広い視角と資本主義経済、社会の法則性といった本質的問題意識によって一貫されている。
¥1500
- ④ **港湾経営**
北見俊郎
山本和夫
港湾を経営体としてつかみ、その中における経営上の原則をあきらかにすると共に将来の港湾経営の原理論を構成しようとする。さらには、日本的なポート・オーソリティのための理論構成にも及ぶ予定である。
近刊
- ⑤ **港湾産業**
喜多村昌次郎
港湾の経済、社会的機能を媒体として成立する港湾関係諸企業の現状をふまえながら、これら諸企業の複合体がやがて、「港湾産業として脱皮するについて、必要な諸条件を展望し、考察したものである。
¥1500
- ⑥ **港湾労働**
徳田欣次
港湾労働を取りまく諸条件と、その実態を明らかにし、その上で将来展望を行ない、近代化の道程を示唆したい。従来港湾労働の究明は6大港を中心にしたものが多いが、地方港の問題も導入。
近刊
- ⑦ **港湾社会**
北見俊郎
荒木智種
港を人間と社会の場としてみることによって、今まで考えられていなかった世界をできるだけえがこうとしている。ジャーナリズム、情報問題をふくめ、情報化社会の港湾機能のあり方をもさぐるようとする。
近刊
- ⑧ **港湾行政**
和泉雄三
現代の行政が、豊かな国民生活の形成という具体的課題を担うものであれば港湾においてもかかる将来展望に立って当面する諸問題を解明することが緊要である。このような視点から、港湾行政の現状と問題点を概観する。
¥2200
- ⑨ **港湾と地域**
梶幸雄編
新しい社会経済地理学的側面から、理論的かつ実証的具体的に、現代日本の港湾の形成とその役割とを分析し解明した。理解を便にする意味から新製のものを含む多くの地図類を随所に掲載した。
近刊
- ⑩ **港湾流通**
北見俊郎編
喜多村昌次郎
流通の合理化を前提として、港湾が一方においてそうした要求をうけながら、一方では、要求に合う生産性を内側から求めようとする諸問題を「研究シリーズ」各巻の執筆者が、共通の問題意識によって書いた論文集である。
¥2200

海運・港湾関係図書案内

海事法令① シリーズ	海 運 六 法	運輸省海運局監修	A 5・834頁・2300円
海事法令⑤ シリーズ	港 湾 六 法	運輸省港湾局監修	A 5・1648頁・4300円
	港湾運送と港湾管理の基礎理論	住田正二著	A 5・296頁・1200円
	流通革新と埠頭経営	日本港湾経済学会編	A 5・320頁・1250円
	現代港湾の諸問題	日本港湾経済学会編	A 5・472頁・3000円
	輸送システムの変革と港湾	日本港湾経済学会編	A 5・300頁・1800円
	港湾運送例規集	運輸省港湾局港政課編	A 5・416頁・1800円
	港湾運送事業法論	市川猛雄著	A 5・288頁・1600円
港湾新書	港湾流通の実務	運輸港湾産業研究室編・新書	220頁・750円
港湾新書	港湾情報産業の実務	港湾総合研究所編・新書	258頁・980円
	港湾運送事業法ノート	森山芳樹著・新書	220頁・850円
新訂	海 運 の 概 要	岡庭博著	A 5・234頁・1200円
	海 運 論	東海林滋著	A 5・360頁・2500円
	世界海運史	黒田英雄著	A 5・364頁・1800円
	コンテナの輸送実務	松本好雄著	A 5・256頁・950円
	国際海上コンテナ輸送をめぐる12章	高村忠也編	A 5・290頁・1500円
	コンテナ輸送の理論と実際	飯田秀雄著	A 5・336頁・1500円
	コンテナ輸送の原点	飯田秀雄著	A 5・246頁・1800円
	海陸複合輸送の研究	飯田秀雄著	A 5・270頁・1500円
	マリーナ <small>(ヨット・モーターボート施設)</small>	西田幸男著	A 5・166頁・950円
	海運同盟入門	塚本揆一著	A 5・310頁・2200円
	海運実務事典	樋口健三編・新書	248頁・1600円
	船舶の衝突と海上保険	今泉・坪井共訳	A 5・336頁・2500円
	長距離フェリーの診断	安原清著	A 5・160頁・950円
	コンテナへの積付実務	山下新日本汽船海務部編	A 5・196頁・1200円
	冷凍コンテナ便覧	上村建二著	A 5・420頁・3500円
	ラッシュ船舶の研究	加藤信光著	A 5・276頁・2200円
	英文海法集	東京海上火災保険海損部編	A 5・504頁・6000円
	物流事業—明日への展望—	大塚秀夫著	A 5・176頁・1300円
	コンテナ用語辞典	日本海上コンテナ協会 コンテナ用語辞典編纂委員会編	A 5・432頁・4500円